

WU WUYUNGA

1. 事業実施の目的

今回の調査は、博士論文執筆のための予備調査として、(1)ラクダ飼育で使用される物質文化の計測と記録、(2)ラクダ牧畜民を対象としたライフヒストリーの収集、(3)内モンゴルアラシャー盟におけるラクダ牧畜業の現状把握と関連資料の収集を目的として実施した。

2. 実施場所

中国内モンゴル自治区アラシャー盟左旗・右旗

3. 実施期日

2019年8月5日（月）～ 2019年8月24日（土）

4. 成果報告

●事業の概要

報告者は、中国内モンゴル自治区アラシャー盟において約20日間の現地調査を実施した。本調査の具体的な目的は、中国内モンゴル自治区アラシャー盟において、(1)ラクダの牧畜やラクダ隊商に従事していた長老たちを対象とし、新中国成立以前（1940年）から人民公社時代にかけてのラクダ飼育の技術や知識、ラクダ隊商の経営や日々の作業を記録するとともに、(2)アラシャー盟における図書館や資料館においてラクダ牧畜に関わる公文書や史料の収集することであった。

現地調査は2019年8月5日から2019年8月24日にかけて実施した。調査では、まず計8人のインフォーマントに聞き取り調査をおこない、彼ら/彼女らのライフヒストリーを収集した。8名の内訳は、人民公社時期におけるラクダ飼育に精通している80歳以上の女性2名、かつてラクダ隊商に従事していた男性3名、ラクダ牧畜の現状に詳しい男性3名である。このほか、実際にラクダ飼育で使用している/していた物質文化も計測・記録した。こうした調査を通して、新中国成立後から人民公社時期におけるラクダ牧畜民の飼育技術や、かつてのラクダ隊商の技術を記録に残すとともに、ラクダ飼育で使用する物質文化の情報やラクダ飼育技術に関する書籍を収集した。

今回の調査のスケジュールは以下である。

2019年8月6日から8月8日：アラシャー右旗アルガランタイガチャにおいて、ラクダ飼育で使用される道具を撮影・計測し、その道具の名称や使い方を聞き取った。調査の期間中に2人のインフォーマントのライフヒストリーも記録した。そのなかの1人は、中国甘粛省生まれの漢民族であり、1960年の「大飢饉」によって地元を離れてアラシャー右旗に移住した。その後、1970年から1974年までラクダ隊商に従事し、アルガランタイガチャから和屯池までに塩を運んでいた。そして、1980年代以降、ラクダ飼育を続けている。彼へ

の聞き取り調査によって、かつてのラクダ隊商の状況と技術を理解することができた。

2019年8月9日から8月11日：アラシャー右旗、マンドウラ山において、ラクダが描かれている岩絵を撮影するとともに、2人のラクダ牧畜民に聞き取り調査をおこなった。

2019年8月12日から8月13日：アラシャー左旗ホンゴルリンソムにおいて、一人のインフォーマントを対象とし、ラクダ飼育の生業暦やラクダ飼育技術について聞き取り調査を行った。

2019年8月15日から8月18日：アラシャー盟の図書館、資料館、書店などにてラクダに関わる書籍や資料を収集した。

2019年8月19日：アラシャー左旗ジラタイ一隊において、ラクダの隊商について聞き取り調査をおこなった。

2019年8月20日：アラシャー左旗ジラタイ二隊において、ラクダのミルクを販売している世帯を訪問し、2人のインフォーマントに対してミルク生産とその技術について聞き取り調査を実施した。

2019年8月21日：アラシャー左旗で、ラクダの隊商について聞き取り調査をおこなった。

2019年8月22日：アラシャー左旗で、ラクダの隊商と人民公社時期におけるラクダ放牧について聞き取り調査をおこなった。

●本事業の実施によって得られた成果

本事業によって、以下の3点の成果を得られた。

第1は、集団化前後におけるラクダ牧畜の技術と組織、その変化を明らかにしたことである。今回の調査によって、1940年代から人民公社時代のラクダ飼育に関わる日間・月間・年間の生業暦（作業内容と投下労働時間、飼育以外の作業など）、男女差、慣習などを記録することができた。特に、「水の肥満」というラクダを水で肥やす技術について調査した。この飼育技術は過去から現在まで続けられていることがわかった。

第2は、1940年代から1980年代にかけてラクダ隊商に従事していた人びとを対象とし、彼ら/彼女らのライフヒストリーを収集し、ラクダ隊商の成員や組織、人数、毎日のスケジュール、出発地から経由地、到着地までのルート設定、ラクダの飼育に関わる情報を収集することができた。

第3は、内モンゴルアラシャー盟のラクダ牧畜民がラクダ飼育で使用される道具の計測と撮影をおこない、過去から現在まで使用されているもの、すでに使用されなくなったもの、新たに使用され始めたものに分類することができた。また、報告者は計3世帯に聞き取り調査をおこない、ラクダ飼育で使用する道具の名称と具体的な使用方法を記録した。このデータは、将来的に地域間比較研究で利用可能である。



写真1：ダーリン（ラクダの背中に荷物をおく袋である）



写真2：ブーイラ、ラクダの鼻木である。（ラクダを制御するために使うものである）



写真3：スウーラガ（搾乳するときに使う桶である）

今回の調査で得た成果は、『総研大文化フォーラム』において発表する予定である。今回の調査では集団化前後のラクダ牧畜に関するデータの収集がおもな目的であった。調査の結果として、中国内モンゴル牧畜地域における集団化前後の状況を記録することができた。

今後の課題として、時間軸を人民公社時期以降（1983年）から2000年までに設定し、生態保護政策が実施された時代背景のもとで、ラクダ牧畜民とラクダ飼育はいかに影響されたのかを明らかにする必要がある。

●本事業について

今回の調査は本事業によって中国内モンゴルアラシャー盟の右旗と左旗二つの広い地域で調査が可能となった。アラシャー盟は面積が27万平方キロメートルもあるため、現地調査が容易ではない。今回の調査により、中国内モンゴルアラシャー盟における集団化前後のラクダ牧畜の状況を記録し、非常に貴重なデータを得ることができた。本事業の実施を許可して頂いた先生の方と担当者の皆様に感謝したい。今後も学生派遣事業が継続されることを望みます。